

チャピngo自治大学 世界展開力強化事業長期派遣帰国留学報告

農学部 農学科 3年 川端美潤

私は去年の8月から約5か月、メキシコのチャピngo自治大学との留学プログラムに参加する機会を頂いた。日本人が想像するメキシコとはどんなところであろうか。あまり良いイメージがなく危ないと想像する人が多いのではないかと正直なところ思う。もちろん、発展途上国であるため日本のようにすべてが便利であるわけではなく、文化の違いも相当あり、イメージ通りでストレスを感じることもなかったわけではない。しかし、熱帯果樹やテキーラなど日本では学べない植物について学べたこと、自分を支えてくれた現地の友人、先生、日本人の方に出会えたこと、日本には味わえない様々な行事に参加したこと、留学に行く前は皆無だったスペイン語も日常会話ができるまで成長したこと…今となっては留学に参加してよかったとプラスの思い出ばかりが頭に残っている。

学校生活については、農大で過ごす大学生活よりも個人的には充実しており満足であった。充実している分、寝る時間を惜しんで机に向かわなければならないこともあったり、留学生だからこそ様々な授業に歓迎され、時間がもっと欲しいと感じることが多かった。学校生活の中でも一番印象に残っていることは、「**Frutales Perennifolios**」の授業である。主に私が以前から興味を持っていた熱帯果樹について学習する教科であるが、宿題や試験が非常に多くたくさん努力した教科でもあり、毎週ある実習やメキシコの南部への研修旅行でクラスメートとも親密になれ、非常に充実した授業であったと思う。研修旅行ではメキシコの農業の実態を肌で触れることができ、また日本とメキシコの農業のつながりについても現地の人から生の声を聴け、この授業を履修して良かったと感じている。留学のほぼ8割～9割を学校生活が占めていたが、学校に毎日いることも飽きないくらい様々な施設あり、友人もたくさんでき、自分の中に印象が色濃く残っている。



冬休みには2人の友達の実家を訪問し、そこでメキシコの歴史や伝統、文化に触れることができた。クリスマスはOaxacaの小さな村で過ごしたが、キリスト教が根強いこの国で

は人生で初めてのとても神聖で、クリスマスの本当の意味を考える時間となった。日本ではクリスマスの2日のみが特別で、家族や友達、恋人と出かけたりご飯を食べるだけであるが、メキシコではクリスマスの9日前から **posada** という行事を通し準備し、年が明けた1月7日まで続くことに非常に驚き、深い歴史と伝統があることを味わえた。年越しは **Chiapas** という観光地でとても有名な場所で過ごした。**Tonina** や **Palenque** というマヤ文明を代表するピラミッドに友達と行き、歴史について学ぶ機会を持てたこと、魅力的な場所に足を運べたことに良かった感じた。**Chiapas** で最も印象に残っているのが、1月7日の「三賢者の日」のお祝いである。クリスマスに生まれたキリストを祝うために三賢者がお祝いの品を持ってくるといわれている日で、家族で集まりお祈りをし、ケーキを食べる。そのケーキには小さい人形が入っており、切り分けた際に自分のケーキに入っていると、1年間幸福が訪れるという言い伝えがあるそうだ。この家庭でも毎年行われているようで、私も参加したがケーキカットの際はとても盛り上がりゲームをしているような感覚であった。メキシコに来てからキリスト教のイベントと聞くと真面目なもの、神聖なものといつもイメージをしてしまっていたが、このイベントだけはとても楽しめた。



留学に参加したからこそ、日本とは異なる勉強ができたこと、文化について学び体験することができたこと、ここで作ることができた縁…全てが自分の将来の糧になると思う。この留学がきっかけで現地をサポートする機会があればよいと感じるし、人とは違った視野を持てるようになればと期待している。留学に参加した一人として、日本人が好印象をもっていない国でも素敵側面がたくさんあり、現地で生活を送ることによって自分にとって学習面だけでなく生活面や精神面で多くの成長が感じられるということを伝えたい。